運動会でも助けあう姿が。一緒にいるのが当たり前になってきました

育ちあい　助けあい　認めあい
“愛”がいっぱい普代っ子

愛がいっぱい ふだいの教育

子どもを育てることは村を育てることと一緒。共に成長を重ねるふだいの教育。

地域で子どもたちを育てる「普代型スクールコミュニティ」構想

平成22年度から村内4つの小学校を1校に統合する計画に沿い、村では平成20年10月に「普代村教育ビジョン」を策定しました。

3000人の村では、どの子も村の宝ものです。学校を核として、地域が子どもたちを育て、そして地域も学校から力をもらい、学校と地域が一体となって活力を生み出していく「普代型スクール・コミュニティ」の実現を目指しています。

このビジョンの実現は、子ども、学校という枠を超え、村全体が幸せになる可能性を秘めています。

小中一貫教育へ向けて

このビジョンを受け、平成22年度には村民で構成する小中一貫教育検討委員会を設立。年度末には委員会以外の村民や中学生の声も吸い上げ「育ちあい　助けあい　認めあい　“愛”がいっぱい普代っ子」を、村が目指す15歳の子ども像として提言しました。岩手県の「小中一貫教育推進モデル」の指定も受け、実現に向けて3年間、研究に取り組みました。その結果を披露する普代村小中一貫教育学校公開研究会が平成24年9月に開かれ、村内外から多くの関係者が集まりました。

乗り入れ授業での気付き

授業では専門性の高い中学校の先生が小学校で教えたり、小学校の先生が中学校の授業に入る「乗り入れ授業」を行います。どこで生徒がつまづくのかよく見えるので、小学校で予防線をはったり、中学校で復習させ分からないことを減らすことで、普代っ子の学力が向上しはじめています。

行事でも小中の垣根を越えて、お互いの運動会への参加、合同学年朝会や、中学生による小学校での読み聞かせなど一緒に活動。中学生は頼もしい態度、小学生は中学へ上がる不安感の払拭など、お互いに学びあうことで、子どもたちの成長を促すことができました。そしてこの取り組みを例に、小学1・2年生と認定こども園との交流も始まり、まさに村の子どもたちが育ちあう姿につながっています。

村の子どもはみんなの宝。はまゆり子ども園時代から、ふだいの教育は始まります

乗り入れ授業で、小学校へ中学の先生が入ったり、中学の授業に小学校の先生が入ったり。つまづきやすい部分の気付きや、情報の共有で中1ギャップの解消や学力の向上に取り組んでいます

平成24年9月に開催された普代村小中一貫教育学校公開研究会

山車づくり、津波のことなど、地元のゲストティーチャーから村のことを教えてもらいます

530（ゴミゼロ）運動でも仲良く収集活動を行います

統合によって遠くなった地域はスクールバスが運行

合同学年朝会や、中学生による小学校での読み聞かせなど一緒に活動。中学生は頼もしい態度、小学生は中学へ上がる不安感の払拭など、お互いに学びあうことで、子どもたちの成長を促すことができました。そしてこの取り組みを例に、小学1・2年生と認定こども園との交流も始まり、まさに村の子どもたちが育ちあう姿につながっています。

村を知る、誇りを持つ

村を理解することも、キャリア教育の一つです。小学校ではこれまで行ってきたチョウセンアカシジミの調査などに加え、「ふだいまつり」を題材に、地元で山車づくりに参加する人をゲストティーチャーに招いて話を聞いたり、中学校では職場体験や、村の特産品の販売体験などを行っています。子どもたちは自然、人、商品を通して、村を知り、村を再発見していきます。

移転も含め実現化への課題

当初の計画では平成25年度より現在地で隣接型から施設一体型の校舎を設計し建築する予定でした。しかし東日本大震災後、村民から水門近くにある学校の安全性を疑問視する声もあり「小中一貫校建設構想委員会」から早期の高台移転希望の答申が出されました。現在、副村長を委員長として「小中一貫校施設整備計画策定委員会」を設置し検討作業を進めています。子どもたちのために、村のためにどうすべきか具体的な計画が今後動いていく予定です。

教育委員会はこちら

普代の学校を、村民が運営に参加するコミュニティ・スクールに！
熊坂伸子教育長

［普代村の15歳の目指す姿］

育ちあい　助けあい　認めあい
“愛”がいっぱい普代っ子

- 育ちあい ● 夢をもち、進んで学ぶ、元気な子ども
- 助けあい ● 思いやりをもち、心をひらき、笑顔であいさつする子ども
- 認めあい ● 自信をもち、たがいの良さを知り、共に生きる子ども